

鹿児島大学病院

研修医 霧島 茉莉 2015年6月

鹿児島大学病院初期研修医2年目の霧島茉莉です。地域医療研修として、2015年6月の1ヵ月間、出水総合医療センターで研修させていただきました。

野田診療所で研修を開始し、先生の御指導の下、上部消化管内視鏡検査や心臓・腹部・頸部エコーを行いました。訪問診療では雨に濡れた茶畑や田園の美しさに感動するとともに、民家の疎らな地域や山中に住む高齢者の生活に触れて、地域における福祉と医療の充実が求められていることを痛感しました。

雨の多い季節でしたが、晴れた日には脱水や熱中症による救急患者を経験しました。高尾野診療所では田植え中に熱中症で倒れて救急搬送された農家の方を診療しました。通常の外来では、高血圧や糖尿病、狭心症などの慢性疾患で通院している患者の診療を行いました。

特別養護老人ホーム鶴寿会たかおのでは認知症のある方の診療や気切チューブの入れ替えなどを行い、介護と医療の交わる現場を見ることができました。養護老人ホーム、通所介護、認知症対応のグループホームなど鶴寿会の経営する他の施設についても説明を受け、福祉施設の法的根拠を学ぶとともに、地域の必要性に対応した鶴寿会の取り組みを知ることができました。

出水市保健センターでは乳幼児の健康相談や3歳児検診を見学しました。検診後のカンファレンスには保健師、看護師、歯科衛生士、臨床心理士など様々な職種の方が参加し、発達や発育に支援が必要と思われる子どもとその家族にどう関わっていくかを検討していました。医学的に見る発育や身体所見の評価だけでなく、保護者と子どものやりとりや言葉の選び方、待ち時間に子どもが他の子どもとどのようにコミュニケーションをとっているかなどを多角的に捉える視点は大変勉強になりました。

出水総合医療センターでは総合内科で研修しました。総合内科外来では心窩部痛や腰痛、めまいなどを主訴とする患者を診療し、問診と診察を行いながら鑑別を進めることを学びました。救急外来では意識障害と片麻痺で救急搬送された脳血管障害の患者や、転倒による大腿骨頸部骨折の患者、交通外傷の患者など様々なケースの初期診療を経験しました。精査加療のため患者を出水郡医師会広域医療センターへ搬送する際に救急車に同乗したこともよい経験となりました。また医療安全管理室、地域連携室、臨床検査科やリハビリテーション技術科での研修を通して、安全で質の高い医療を提供するためには多職種の連携が重要であることを学びました。

地域の必要性に応える医療の在り方を意識し、今後も救急の初期対応を含めて総合内科的な視点を培っていきたいと存じます。御指導してくださった先生方、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ、研修報告とさせていただきます。